

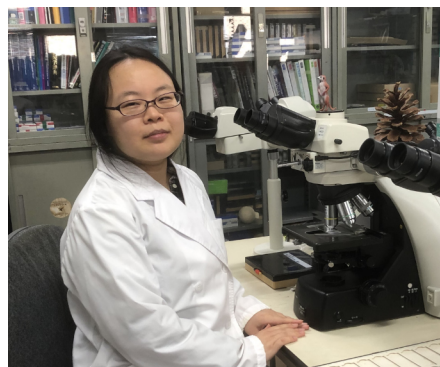
- ・ 教員着任のご挨拶
- ・ 診療科紹介 - 麻酔科 -
- ・ 学生実習・院内見学再開
- ・ 東大VMC基金活動報告
- ・ 退職のご挨拶
- ・ VMC Webセミナー
- ・ 臨床試験のご案内



東京大学大学院農学生命科学研究科 附属動物医療センター 広報誌
Veterinary Medical Center, the University of Tokyo | NEWS LETTER NO.6 May 2022

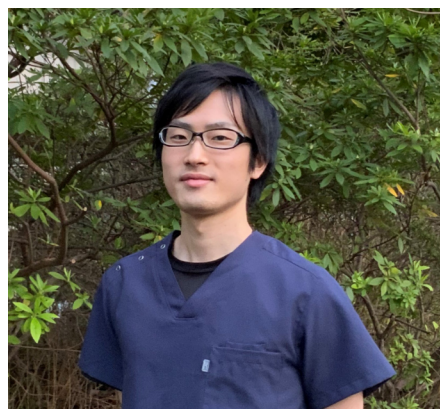
お知らせ

教員着任のご挨拶



うねやま みずほ
病理・遺伝子診断部 特任研究員 畝山 瑞穂

本年4月より当センターの病理・遺伝子診断部に赴任いたしました畝山瑞穂と申します。私は本学の獣医病理学研究室に学部、博士課程を通じて計7年在籍しており、その過程で当センターから依頼される病理検体を数多く目にしてきました。病理検査は動物の疾病診断やその後の治療方針を大きく左右する重要な検査ですが、生きた動物と直接対峙する機会に乏しく病理単独では疾病の全体像を把握することが難しいという側面も持ちます。病理でしか分からないことと臨床でしか分からないこと、両者の視点を併せることが、動物疾病の理解に必要不可欠だと考えています。より良い診断と獣医療の発展のため、病理と臨床を繋ぐ橋渡しとなれるよう及ばずながら尽力してまいります。まだまだ不慣れな点も多いかと存じますが、よろしくお願いたします。



みはら たいき
獣医薬理学研究室 助教 三原 大輝

本年4月より主に内科にて診療見学をさせて頂いております三原大輝と申します。普段は本学の獣医薬理学研究室にて助教という立場で研究や学生指導に従事しております。これまで8年間にわたり薬理学研究に携わってきた中で、臨床と基礎の両側面から研究を捉えることの重要性を学びました。自身の臨床的な視野の狭さに危機感を覚え、臨床現場を間近で勉強し、可能であれば診療も行える獣医師を目指したいと考え、今回の診療見学に至った次第です。また、東大獣医における臨床系と基礎系の相互関係をより強めるきっかけになりたいとも考えております。臨床現場での生きた声を反映した基礎研究や、基礎研究からの知見の還元と共同研究の提案をより身近かつ円滑に行える環境が東大獣医においては獣医学の飛躍に繋がるはずですが、臨床の技術には拙い部分も多いとは思いますが、貴重な機会を頂いた身であることを自覚した上で日々学び、有意義な時間にしたいと考えております。今後ともご指導のほどよろしくお願いたします。

診療科紹介：麻酔科

東京大学附属動物医療センターでは、年間1800件を超える麻酔あるいは鎮静下における手術、検査、放射線治療が行われます。各診療科からの依頼に応じ、これらの麻酔・鎮静の管理を麻酔科が行っています。

患者さんが手術および一部の検査や治療を安全に受けるためには麻酔や鎮静が必要です。手術で生じる痛みやストレスが患者さんにかかる負担が大きくなると、術後の回復が遅れたり合併症の発生が多くなったりします。獣医療に限らず医療における最新の知見を取り入れ、複数の鎮痛薬や鎮痛法を組み合わせ、患者さんの痛みやストレスを適切に軽減する麻酔管理の実践を目指しています。また、手術中には手術自体の影響に加えて、麻酔のために使用される薬剤により、患者さんの体には様々な変化が引き起こされることがあります。心電図、心拍数や血圧、呼吸機能、体温などを常に観察しながら必要に応じて適切な処置を行い、麻酔導入から覚醒まで患者さんの安全を守り、手術が円滑に進行するよう努めています。

CT検査、MRI検査、内視鏡検査、骨髄検査、放射線治療などでは、手術ほど大きな負担はかかりませんが、一定時間姿勢を変えないことや軽度の痛みやストレスを伴う手技が必要となる場合があります。そのため、検査や治療を安全に行い、患者さんの負担やストレスを抑えるために麻酔や鎮静を行います。

また、麻酔・鎮静の管理に限らず、麻酔・鎮静の前後を通して患者さんの全身状態にも気を配ります。当センターでは心機能、呼吸機能あるいは腎機能などの異常をはじめ、様々な問題を抱えている患者さんに手術や検査を行う機会が多いため、各診療科と協力して安全に麻酔・鎮静を受けられるよう最適な治療や管理を行い、患者さんの全身状態が良好に維持されるように努めています。





お知らせ

院内の学生実習・見学を再開しました

東京大学では新型コロナウイルス感染症対策のため活動制限指針を設けています。3月のまん延防止等重点措置の緩和に伴い、学内の活動制限レベルが引き下げられました。当センターにおいても、活動制限の緩和に伴い院内の学生実習と学外からの診療見学の受け入れを段階的に再開しました。教育病院として次世代を担う獣医師を育成するため、感染防止対策を講じた上で学生の検査実習、参加型臨床実習を行っています。研修医の受け入れと臨床研修にも力を入れておりますので、診療見学をご希望の方はお気軽にお問い合わせください。

今後も引き続き日々の検温、手洗い消毒を励行し、感染防止に配慮して診療を続けてまいりますので、ご理解のほどよろしくお願い申し上げます。

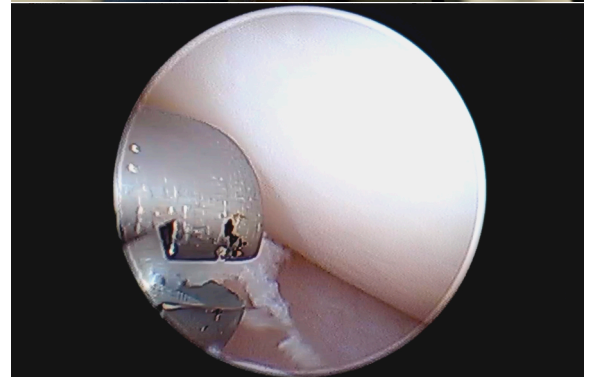
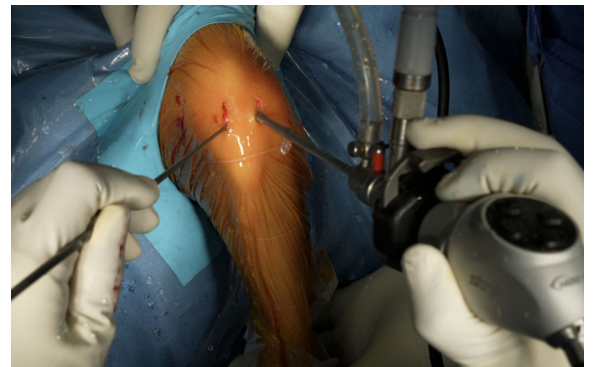


お知らせ

東大VMC基金の活動報告

東京大学動物医療センターの開設140周年にあたり2019年より開始した東大VMC基金は、皆様に賜りましたご支援により累計寄付金額が23,874,638円に到達しました（2022年4月22日現在）。本基金に深いご理解とご協力を賜り、スタッフ一同厚く御礼申し上げます。

寄付金を活用して2022年3月に関節鏡装置の機器の拡充を行いました。関節鏡を用いた検査や手術では、直径2.3mmほどの細いスコープを皮膚の切開部位から関節内に挿入し、関節内を観察しながら処置を行います。関節鏡手術は関節へのダメージを最小限に抑えられるため、疼痛が少なく術後の機能回復も早いという大きな利点があります。当センターでは2017年にストライカー社の関節鏡装置を導入し、様々な運動器疾患の診断や治療、外科手術に役立ててきました。今後も的確で動物の体への負担が少ない診断・治療を目指してまいりますので、引き続き皆様のあたたかいご支援をお待ち申し上げます。



上：膝関節内に挿入したスコープとプローブを操作している様子
下：関節鏡下での損傷した半月板の処理（左側のカッターで損傷した半月板を切除している。右側に見えるのは大腿骨。）

UTOKYO
VMC
Veterinary Medical Center

これまでにご支援いただいた金額
総額 **23,874,638** 円

退職のご挨拶

病理診断部の坪井先生が退職いたしました。今後の益々のご活躍を、スタッフ一同祈念しております。

このたび、3月末をもちまして東京大学附属動物医療センターを退職しました。「院内にも病理の知識のある人」という方針のもと、2013年に新規に立ち上がった病理診断部ですが、気付けばもう8年も経過していました。着任当初、臨床経験は一切なく、右も左も分からないゼロからのスタートでした。そんな私を温かく迎え入れてくださった当時のVMCの先生方には本当に感謝しています。臨床医の先生のそばで、時に臨床医と一緒に診断ができるという経験は大変貴重なもので、臨床の先生がどのような考えをもって病理検査を依頼するのか、また、どのようなときに病理医と臨床医の間で見解にギャップが生じてしまうのかなど、様々なことを学ばせていただきました。この8年間、様々な教員・研修医・コメディカルの方々と一緒に仕事をさせていただき、私の人生で非常に得がたい経験となりました。

2022年4月からは病理診断会社で働いております。VMCで培った知見を活かし、国内全体の獣医療に還元できるよう、精進して参ります。お世話になった皆様の今後のご活躍とご健康を心より願っております。8年間、本当にありがとうございました。

前 VMC 病理診断部 特任助教
現 サンリツセルコバ検査センター

坪井 誠也





お知らせ

VMC webセミナーのお知らせ

当センターでは、獣医臨床をテーマにした教員一名によるオープン・セミナーと研修医による症例検討を隔月で企画しております。2020年10月よりオンライン開催に変更し、全国から多くの獣医療関係者の方にご参加いただいております。セミナーの開催情報は当センターのホームページやFacebookページ、メール配信にて告知しております。メール配信をご希望の方は下記の連絡先まで「メーリングリスト登録希望」と記載してご連絡ください。学外・学内を問わず、獣医臨床を志す多くの方のご参加をお待ちしております。

連絡先：本阿彌 宗紀 utvmc.info@gmail.com

VMC web seminar

対象 獣医師、動物看護師、学生、院生、企業関係者、どなたでも参加可能

事前登録 事前登録が必要になります
登録後、セミナー参加に関する情報の確認メールが届きます

資料 資料は当日ダウンロードが可能です

参加費
無料

詳細はこちら▶

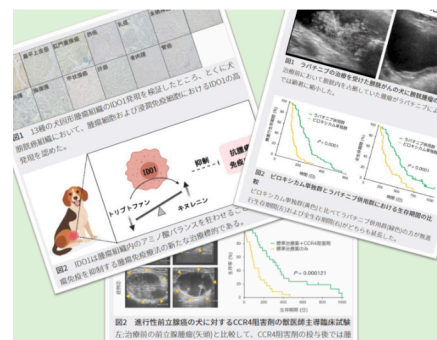


お知らせ

臨床試験に基づく研究成果がプレスリリースされました

当センターでは新規治療法の確立を目的とした臨床試験を行っています。臨床試験とは、特定の病気の診断や治療に関わる様々な新しい医療手段について、有効性や安全性などを確認するために行われる試験のことです。飼い主様への十分な説明と同意の下で実施し、得られた成果は学会発表や学術論文などで公表しています。この半年間に、当センターの複数の臨床試験の研究成果が東京大学農学部のホームページでプレスリリースされました。従来の治療法では助けられなかった動物たちへの新たな治療選択肢となる可能性が注目されています。

研究の詳細についてのお問い合わせもお受けしておりますので、詳しくは当センターのホームページ、または本学農学部のホームページをご覧ください。



Information

臨床試験のご案内



東大VMCでは現在以下の臨床試験プログラムを実施しています。当該症例に遭遇した場合は当センターへご紹介をお願いします。詳細は右上のQRコードを参照ください。

犬の膀胱癌に対するIDO1阻害剤の臨床試験

- 対象**
- 犬膀胱癌に罹患した症例（疑い症例の受診も可能です）
 - 東京大学附属動物医療センターに通院できる飼い主様（試験開始後1, 3, 5週目の通院が必要になります。）
 - 治療効果検証のための病変の採材にご協力頂ける飼い主様

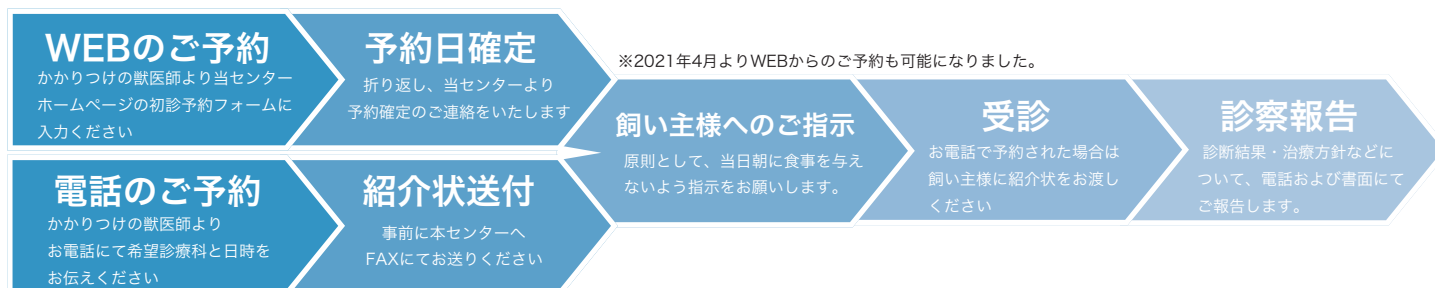
犬の固形腫瘍に対する高分子型抗癌剤の臨床試験

- 対象**
- 外科手術による根治的切除不能あるいは転移病変を有する悪性固形腫瘍のうち、放射線や抗癌剤などその他の有効な治療法が無い症例（脳腫瘍、末梢神経鞘腫、扁平上皮癌、線維肉腫、悪性黒色腫、甲状腺癌、肺癌、肝臓癌、膵臓癌、胃癌、腸腺癌、消化管間質腫瘍、副腎腫瘍、腎癌、尿路上皮癌、肛門嚢腺癌、乳癌、骨肉腫、血管肉腫、肥満細胞種、組織球性肉腫などのうち、標準治療の有効性が期待されない、または耐性となった症例）
 - 東京大学附属動物医療センターに通院できる飼い主様（治療期間中は1~2週に1度の頻度での通院が必要になります。）
 - 治療効果検証のための病変の採材にご協力頂ける飼い主様

犬の悪性固形腫瘍に対する抗体薬の臨床試験

- 対象**
- 外科手術による根治的切除不能な扁平上皮癌、線維肉腫、または転移病変を有する悪性黒色腫、かつ、標的分子の発現を認める腫瘍（標的分子の発現については、本院での病変の採材、または他院での手術時の検体を用いて検査が可能です。扁平上皮癌、線維肉腫、悪性黒色腫の標的分子発現率は40~80%です。）
 - その他、外科的切除不能あるいは転移病変を有する悪性固形腫瘍のうち、標的分子の発現を認める腫瘍
 - 東京大学附属動物医療センターに通院できる飼い主様（初回投与時の入院、その後1-2週に1度の頻度での通院が必要になります。）
 - 治療効果検証のための病変の採材にご協力頂ける飼い主様

初診予約～診察の流れ



初診外来表

診療科	初診 受付時間	月	火	水	木	金
内科系	9:00-11:00	△	○	○	△	○
外科系	9:00-10:00	○	手術	手術	○	手術
眼科	9:00-11:00	○	○	手術		○
エキゾチック	9:00-10:00	○		手術		
行動	午前・午後	○			○	

△：要相談

予約専用（代表） ☎ 03-5841-8004（平日 11:00-16:00）
 其他のお問合せ ☎ 03-5841-5420（平日 9:00-16:00）
 ☎ 03-5841-5413（平日 16:00-20:00）
 行動診療科はFAXにて予約：03-5841-8190
 （詳細は <http://www.vm.a.u-tokyo.ac.jp/koudou/j-clinic1.html>）

アクセス



- ★電車でお越しの場合：
 ・メトロ南北線 東大前駅 出口1から徒歩3分
 ・メトロ千代田線 根津駅 出口1から徒歩13分（根津駅からは登り坂です）
- ★お車でお越しの場合：
 ・農学部正門からお入りください。病院の前までお入りいただけます。

COVID-19感染拡大防止のための大学活動制限により変更される場合があります。

ご予約時の注意点（詳細は右下のQRコードをご参照ください）

当センターでは病気の確定診断や、手術などを含む高度医療に主力をおいています。そのため、一般的な治療や診断後・安定後の治療はできる限り紹介医にお願いすることを原則としておりますので、あらかじめご了承ください。

- ・ 外科の初診は診察のご予約になります。手術のご予約ではありませんのでご了承ください。また、麻酔が必要な検査や処置は初診当日に行えない場合があります。
- ・ 当センターの放射線治療装置はオルソボルトージのみとなっています。当センターの放射線装置での対応が難しい場合は他の診療施設を紹介させていただく場合があります。オルソボルトージ装置では適応外の場合には他の診療施設への紹介をご検討ください。
- ・ 眼科では設備の都合上、白内障手術は現在対応できません。
- ・ 診断あるいは治療方針が確定しましたら、原則として紹介病院にお引き継ぎいただきます。
- ・ ご紹介後、当院の休日（土日祝日など）で対応できない場合は、貴院での対応をお願いいたします。（診察日であっても緊急手術などの緊急対応には原則として応じることができませんのでご了承ください）
- ・ 当センターはエキゾチック動物診療科を設置しておりますが、動物種によってはお受けできない場合がありますのでご了承ください。

また、以下の点を飼主様へ説明をお願いします。

- ・ 来院当日の朝は絶食の上でお連れください（飲水は可）
 （糖尿病、幼齢、エキゾチック動物などで絶食が困難と思われる場合は当センターにご確認ください）
- ・ 当日の検査は、動物の状態や当センター全体の検査状況に応じて行います。
 初めて来院される際に、必ずしも全ての検査が行なえるとは限りませんのでご了承下さい。
- ・ 緊急性がある場合をのぞき、予約当日の外科手術は行なっていません。

詳細はこちら▷



休診のお知らせなどの情報更新は随時HPで公開しております。HPもぜひご覧ください。

<http://www.vm.a.u-tokyo.ac.jp/vmc/>

Facebookもチェック



東京大学附属動物医療センター
 Veterinary Medical Center, The University of Tokyo

【住所】 〒113-8675 東京都文京区弥生1-1-1
 【TEL】 予約専用（代表）：03-5841-8004【受付時間】 平日11:00～16:00
 其他のお問合せ：03-5841-5420【受付時間】 平日 9:00～16:00
 03-5841-5413【受付時間】 平日16:00～20:00
 【URL】 <http://www.vm.a.u-tokyo.ac.jp/vmc/>

編集・発行

編集委員：東京大学附属動物医療センター 広報委員会

発行日：2022年5月1日 発行所：東京大学附属動物医療センター